# 2026年11月15日(日)

教育講演

9:00 ~ 10:30 | 第1会場（天瑞：4F）

## [EL-3] 教育講演3（物理療法）

座長：中原 寿志（宮永病院）

9:00 ~ 10:30

[教育講演3（物理療法)] “いま”を問い直し，“未来”を変える物理療法
〜作用機序と病態に基づく使い分けと臨床判断へ〜

中村 潤二 (西大和リハビリテーション病院)

教育講演

12:20 ~ 13:20 | 第1会場（天瑞：4F）

## [EL-4] 教育講演4（診療報酬）

座長：田上 茂雄（宮永病院）

12:20 ~ 13:20

[教育講演（診療報酬)] “仕組み”を知ることが，未来を変える
若手理学療法士のための診療報酬と制度の読み解き方
〜臨床力に“政策力”を加える視点とは〜

野崎 展史 (日本理学療法士協会)

教育講演

2026年11月15日(日) 9:00 ~ 10:30 | 第1会場（天瑞：4F）

**[EL-3] 教育講演3（物理療法）**

座長：中原 寿志（宮永病院）

“いま”を問い直し，“未来”を変える物理療法
～作用機序と病態に基づく使い分けと臨床判断へ～
中村 潤二（西大和リハビリテーション病院）

9:00 ~ 10:30

[教育講演3（物理療法）] “いま”を問い直し，“未来”を変える物理療法
～作用機序と病態に基づく使い分けと臨床判断へ～

中村 潤二 (西大和リハビリテーション病院)

教育講演３（物理療法）

2026年11月15日（日） 9:00 ~ 10:30｜第1会場（天瑞：4F）

**教育講演３（物理療法）**

座長：中原 寿志（宮永病院）



［講師紹介］

## 中村 潤二（ナカムラ ジュンジ）

西大和リハビリテーション病院

［職歴］

2007年　西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部 入職
2021年　畿央大学大学院健康科学研究科　客員准教授
2023年　西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部 副技師長（現職）

［学歴］

2007年　畿央大学理学療法学科 卒業
2011年　畿央大学大学院 健康科学研究科修士課程　修了
2015年　畿央大学大学院 健康科学研究科博士課程　修了

［主な資格］

理学療法士，専門理学療法士（物理療法，神経），認定理学療法士（物理療法）

［業績］

・中村 潤二, 新山 実優, 他: 拡散型圧力波療法の刺激強度の違いが健常者の下肢の柔軟性や脊髄運動ニューロン興奮性に即時的に与える影響. 物理療法科学 2024.（学術優秀賞）
・Nakamura J, Nishimae T, et al. Effects of postural-control training with different sensory reweightings in a patient with body lateropulsion: a single-subject design study. Physiother Theory Pract. 2023.
・Nakamura J, Okada Y, et al. Reliability and laterality of the soleus H-reflex following galvanic vestibular stimulation in healthy individuals. Neuroscience letters 2021.
・Nakamura J, Shiozaki T, et al. Role of somatosensory andor vestibular sensory information in subjective postural vertical in healthy adults. Neuroscience letters 2020.
・Nakamura J, Kita Y, et al.  Influence of the stimulus parameters of galvanic vestibular stimulation on unilateral spatial neglect. Neuroreport 2015 May 27;26(8):462-6.
・Nakamura J, Kita Y, et al.  Effects of galvanic vestibular stimulation combined with physical therapy on pusher behavior in stroke patients: a case series. NeuroRehabilitation 2014;35(1):31-7.

［主な社会活動］

日本物理療法学会 代議員
日本理学療法学会連合 日本物理療法研究会 理事
日本理学療法学会連合 理学療法学 査読委員
日本物理療法学会 物理療法科学 編集委員
日本神経理学療法学会 神経理学療法 査読委員

教育講演３（物理療法）
2026年11月15日（日） 9:00 ~ 10:30｜第1会場（天瑞：4F）
**教育講演３（物理療法）**
座長：中原 寿志（宮永病院）

# “いま”を問い直し，“未来”を変える物理療法
## ～作用機序と病態に基づく使い分けと臨床判断へ～

中村 潤二（西大和リハビリテーション病院）

物理療法は，疼痛や関節拘縮，痙縮，筋力低下，運動麻痺，歩行障害など，さまざまな症状に対して用いられている．しかし物理療法のモダリティの選択や刺激条件は経験的に決められ，画一的な介入選択となりやすく，どの病態に，なぜその介入を用いるのかが十分に整理されていないことも多い．物理療法をより有効に活用するためには，モダリティごとの作用機序や特性を理解したうえで，対象者の病態と結びつけて適応を考える必要がある．

本講演では，電気刺激療法や体外衝撃波療法を中心に，現在行われている物理療法を見直したい．電気刺激療法については，脳卒中後の痙縮や運動麻痺，しびれ，歩行障害に対する適応を中心に取り上げる．電気刺激といっても刺激方法は異なり，目的や刺激対象も異なる．単に電気を流す治療として一括りにするのではなく，何を目的とした刺激なのかを整理しながら適応を考える．

体外衝撃波療法は，比較的新しい物理療法モダリティであり，脳卒中後の痙縮などを中心に紹介する．痙縮は伸張反射に関与する神経学的要因だけで説明できるものではなく，筋や腱など末梢組織の変化も関与し，多様な病態を示す．体外衝撃波を用いる際には，症状名だけで適応を決めるのではなく，どの組織や病態を標的とするのかを検討したうえで選択することが重要である．

最後に物理療法の未来への可能性として，ニューロモデュレーションについて取り上げる．なかでも迷走神経電気刺激に着目する．迷走神経は自律神経反応の調節に関与し，循環動態や睡眠，さらに運動学習にも影響を及ぼす可能性がある．国際的には迷走神経刺激に関する報告が増加している一方で，本邦のリハビリテーション医療の領域においては，研究報告や臨床活用が十分ではない．本講演では，パーキンソン病に対する迷走神経電気刺激について自験例を交えて紹介し，今後の物理療法における可能性を考える．

物理療法の“いま”を問い直すとは，これまで用いてきた治療を否定することではなく，その作用機序と病態との関係をあらためて見つめ直すことである．画一的に治療を選択するのではなく，評価によって治療標的を定め，患者ごとに適切な刺激を選択することが求められる．その積み重ねが，既存の物理療法の価値を引き出すとともに，ニューロモデュレーションをはじめとする新たな治療の可能性を臨床へつなげていく．本講演を，日常の物理療法を問い直し，その先にある理学療法の“未来”を考える機会としたい．

教育講演

2026年11月15日(日) 12:20 ~ 13:20 | 第1会場（天瑞：4F）

**[EL-4] 教育講演4（診療報酬）**

座長：田上 茂雄（宮永病院）

“仕組み”を知ることが，未来を変えるー若手理学療法士のための診療報酬と制度の読み解き方
～臨床力に“政策力”を加える視点とは～
野崎 展史（日本理学療法士協会）

12:20 ~ 13:20

[教育講演（診療報酬）] “仕組み”を知ることが，未来を変える
若手理学療法士のための診療報酬と制度の読み解き方
～臨床力に“政策力”を加える視点とは～

野崎 展史 (日本理学療法士協会)

教育講演４（診療報酬）

2026年11月15日（日）12:20 ~ 13:20｜第1会場（天瑞：4F）

## 教育講演４（診療報酬）

座長：田上 茂雄（宮永病院）



［講師紹介］

### 野崎 展史（ノザキ ヒロフミ）

日本理学療法士協会

［略歴］

1987年，富山県富山市生まれ．富山県立富山高等学校を卒業後，茨城県立医療大学に進学し，理学療法士免許を取得．その後，筑波大学および産業技術総合研究所における研究活動，有床診療所およびデイケアでの臨床勤務を経て，日本理学療法士協会に入職．同協会では政策企画部門の立ち上げに携わるとともに，医療・介護・障害福祉およびヘルスケアサービスに関する厚生労働省・経済産業省等との対外交渉実務および業務統括を担う．2017〜2018年に厚生労働省保険局，2020〜2021年に同医政局へ出向し中央行政を経験．その後，神奈川県庁医療危機対策本部および厚木保健福祉事務所への業務支援派遣を通じて地方行政にも従事する．現在は，日本理学療法士協会の報酬改定担当課長および理事を務めるとともに，東京都理学療法士会ならびに川崎市子ども・子育て会議の委員として社会活動に従事している．

［主な資格］

理学療法士，認定理学療法士，修士

［業績］

・医療機関における退院支援の取り組みと循環器および関節症疾患の在院日数との関連に関する地域相関研究．野崎展史, 山下真司, 田城孝雄．厚生の指標 73(6) 20-27 2026年6月
・診療報酬改定の変遷にみる理学療法士の制度的環境の変化．野崎展史．理学療法福岡　第39号7-9 2026年3月
・理学療法士の多様なキャリアと後進の育成．野崎展史．秋田理学療法 33(1) 3-4 2026年3月
・医療機関における退院支援の取り組みと一般病床在院日数との関連に関する地域相関研究．野崎展史, 山下真司, 田城孝雄．厚生の指標 72(5) 14-19 2025年5月

［主な社会活動］

川崎市子ども・子育て会議　委員
公益社団法人東京都理学療法士協会　エスカレーターマナーアップ推進委員会委員
同委員会　こどもプロジェクト　統括リーダー

教育講演４（診療報酬）

2026年11月15日（日）12:20 ~ 13:20｜第1会場（天瑞：4F）

**教育講演４（診療報酬）**

座長：田上 茂雄（宮永病院）

# “仕組み”を知ることが，未来を変える<br>若手理学療法士のための診療報酬と制度の読み解き方<br>～臨床力に“政策力”を加える視点とは～

野崎 展史（日本理学療法士協会）

本講演では，「仕組み」を理解することが臨床実践の質をどのように変え得るのかという視点から，若手理学療法士に向けて診療報酬および関連制度の読み解き方を提示する．

理学療法士の専門性は，個々の臨床技術や評価能力にとどまらず，それが提供される制度的枠組みと不可分である．診療報酬や介護報酬は単なる「収益の仕組み」ではなく，医療・介護サービスの提供内容や質，さらには患者のアウトカムにまで影響を及ぼす強力な政策ツールである．しかしながら，これらの制度を「与えられた条件」として受動的に捉え，その構造や意図を十分に理解しないまま日常業務に従事している現状も少なくない．

診療報酬制度は，エビデンス，財政制約，政策目標といった複数の要素が交錯する中で設計されており，その改定過程は医療政策の方向性そのものを反映している．例えば，早期リハビリテーションやチーム医療の推進，地域包括ケアシステムの深化，アウトカム評価の導入などは，いずれも報酬改定を通じて現場に具体化されてきた．すなわち，制度の「読み解き」は，その背後にある政策意図を理解し，自らの専門職としての役割を再定義する営みにほかならない．

本講演ではまず，医療保険および介護保険を中心とした社会保障制度の基本構造と改定プロセスについて概説する．その上で，リハビリテーション専門職に関連する主要な評価体系や算定要件を題材に，「なぜこのような要件が設定されているのか」という視点から制度の意味づけを行う．また，近年の改定動向を踏まえ，アウトカム評価，データ活用，多職種連携，地域移行支援といったキーワードが，今後の臨床にどのような変化をもたらすのかを整理する．

さらに，制度理解を単なる知識習得にとどめず，「政策力」として臨床に接続する視点を提示する．ここでいう政策力とは，制度を批判的に読み解き，自施設や地域の実情に応じて最適な実践を構築するとともに，必要に応じて制度改善に資する発信を行う力である．例えば，現場での課題をエビデンスとして蓄積し，学術的・社会的に発信することは，将来的な制度改定に影響を及ぼし得る重要な営みである．

若手理学療法士にとって，制度は決して遠い存在ではない．むしろ日々の臨床判断やサービス提供のあり方に直結する「もう一つの臨床」である．本講演を通じて，制度を理解し主体的に関わることの意義を共有し，臨床力に政策的視点を加えることが，より質の高いリハビリテーションの実現につながることを提起したい．